

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

INDEX

01. 開院1年を迎えて
02. お薬手帳を持ちましょう
03. MRI検査について
04. 医療連携フォーラム2012を開催致しました、公開セミナーを開催します、編集後記



開院1年を迎えて



院長 伊藤 洋

平成24年1月5日に東京慈恵会葛飾医療センターに生まれ変わり、1年が経過致しました。皆様には青戸病院からの変わらぬご支援・ご協力を頂き、改めまして感謝申し上げます。

葛飾医療センターは「病気を診ずして病人を診よ」の理念に基づき「全人的」な診療を実践し、患者さんやご家族から信頼される病院を目指して参りました。療養環境におけるアメニティの充実を図り、当センターから臨む雄大な中川、富士山、スカイツリー等の景観は、病気に立ち向かう患者さんに最適な環境でお過ごし頂く一助となっていると思います。また、地域医療の多様なニーズに応え、総合診療の充実、断らない救急体制を行い、地域社会に貢献できる病院としてこれからもまい進して参ります。

病院の外に目を向けますと、新駐車場・駐輪場を正面玄関前ロータリーに隣接して設置し、また、平成24年10月1日から、青砥駅と葛飾医療センターを結ぶ路線バスが正面玄関まで乗り入れ、病院までのアクセスが向上致しました。敷地内には桜やコブシ、メタセコイヤなど植樹を行い緑地の整備も完了いたしました。隣接する葛飾区公園との周辺環境と共に、春の訪れを楽しみにして頂きたいと思っております。

開院して1年、当葛飾医療センターは患者さんのため、常に前進して参りました。これからも葛飾医療センターのテーマであります「地域と共生し、進化・創造し続ける病院」の実現に向け、教職員一同、一丸となって取り組んで参ります。引き続きご支援・ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



お薬手帳を持ちましょう

お薬手帳をお持ちですか？

お薬手帳は飲んでいる薬の名前、量、アレルギー・副作用歴などを記録する手帳です。医師や薬剤師などの医療関係者に見せることで、いろいろな場面で役立ちます。



『安心を携帯しよう。お薬手帳』。

<日本薬剤師会ホームページより>

1 医療機関にかかるときは 持っていきましょう。

現在飲んでいる薬の情報を確認でき、薬の飲み合わせや重複による副作用を防止できます。白い薬、血圧の薬などの情報からでは、正しい情報を得ることはできません。市販薬・サプリメントの情報も記入してください。また、アレルギー・副作用歴より、再発を予防できます。

2 緊急時・災害時に 役立ちます。

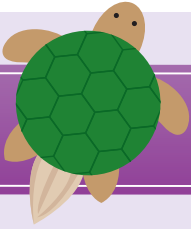
救急受診時、災害時にお薬手帳があれば、飲んでいる薬の情報を正確に伝えられます。東日本大震災時にもお薬手帳が役立った事例が数多く報告されています。

3 1冊にまとめましょう。

病院ごとや薬局ごとにお薬手帳を持つと飲んでいる薬の情報がすべてわかりません。複数の医療機関におかかりの場合でも、薬の情報を日付順に1冊にまとめましょう。



お 薬手帳を活用することで、お薬による治療を安全に行うことができるだけでなく、みなさんが日頃飲んでいる薬を整理し、理解することにも役立ちます。みなさんが安心してお薬を飲むために、お薬手帳を持ちましょう。



MRI 検査について



MRI検査は体の生体情報を画像化でき、高い組織コントラストがえられることから、今日の画像診断の重要な位置づけにあります。MRI検査は誕生から20年以上経過した現在、高磁場装置の登場やハードウェア・ソフトウェア技術の向上により、新たな撮像法や検査法が登場しており、技術進歩が目まぐるしい分野であります。また、MRI検査は全身において、高い有用性が認識されており、X線被ばくがないことから小児科をはじめ各診療科から多くの検査依頼、研究や特殊な撮像条件など様々なニーズや、3T装置導入の要望などがあります。

当院では最新の1.5T装置が稼働しており、拡散強調画像の歪みの低減技術や磁化率強調画像(SWI)、息止め不良患者に対しての呼吸同期撮影、小児患者に対する静音撮影など様々な最新技術の使用が可能となっており、従来装置よりも画質向上が得られております。検査時間は単純検査で20分、造影検査で30分~1時間を要す検査であり、予約検査で対応している現状であります。葛飾医療センターは4病院の中で、唯一1台の装置環境の中でMRI検査を実施しており、予約検査以外に急患対応を予約患者の合間に対応しております。

このような背景の中で、通常時間帯(8:30~17:00)の予約検査では検査待ち日数が長期化した為、対応策として現在は8時から検査を開始し、最終は19時までMRI検査を実施しております。

今後も、画像診断部として検査待ち日数の短縮や将来スペースへの2台目装置の早期導入に向けての取り組みなど、患者満足度や各診療科及び紹介元の先生方のニーズに対応できるように取り組む所存でありますので、今後もMRI検査についてご理解、ご協力をお願いいたします。





葛飾医療センター 医療連携フォーラム2012を開催致しました

葛飾医療センターは患者さんの紹介や医療に関する講演会を通じて、地域の医療機関の（診療所や病院）との連携を行っています。この医療における連携を強化する目的で、平成24年11月10日（土）に、「慈恵医大葛飾医療センター医療連携フォーラム2012」を開催し、地域の医療機関の方々にご参加いただきました。

冒頭、伊藤 洋院長の開会の挨拶から始まり、小児科 齋藤 義弘診療部長による「地域医療連携の強化に向けて小児科の現状と課題」および、吉岡医院の吉岡 雅之院長よる、「地域医療連携の推進のために神経内科の医療連携」について講演が行われました。

第二部の懇親会では当センターの各診療科診療部長の挨拶があり、ご参加頂いた先生方と懇親を深めました。普段は電話や紹介状でしか連絡をとれない先生方と直接会って話す機会を得て、「顔の見える医療連携の推進」を図ることが出来ました。

この医療連携フォーラムは次年度以降も開催をする予定です。



公開セミナーを開催します

1.日 時 平成25年2月9日（土） 14:00～15:30（開場13:30～）

2.会 場 慈恵医大葛飾医療センター 5階 講堂

3.テーマ 「脳卒中のお話 ～ならないために、なった時のために～」

4.司 会 脳神経外科 診療部長 赤崎 安晴

5.挨拶 葛飾区医師会会長 石川 辰雄

6.演者・演題
 1) 脳神経外科 診療医員 荒井 隆雄 「脳卒中ってどんな病気？」
 2) 神経内科 診療医長 橋本 昌也 「ホントは怖い「かるい」脳梗塞」

7.後 援 (社)葛飾区医師会 後援・協賛:葛飾区、慈恵同窓会 **8.参加費** 無料



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

今年の冬の訪れは、いつもより早かったように思います。

ノロウイルスの感染が全国的に流行しており、手洗など十分な予防が大切です。また、インフルエンザも流行期に入ったとの情報発信もあり、うがい、手洗、マスクなどで感染しないよう予防の徹底を心がけましょう。

葛飾医療センターも2年目に入り、患者さんの信頼に応えるよう、より一層の努力をしておりますので、本年もよろしくお願ひ申し上げます。